

令和3年度 第4回市民と市長の座談会

会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	令和3年11月18日（木）午後6時00分～8時00分
開催場所	桜町上水会館
参加者	男性 4名 女性 1名 計5名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ（市政報告） 3 懇 談 新型コロナウイルス感染症について 4 閉 会
主な意見	<ul style="list-style-type: none">・緊急事態宣言中の防災行政無線による呼びかけについて・コロナワクチンの接種率について・コロナウイルス感染者の宿泊療養施設について・コロナワクチン接種券の発送時期について・P a y P a y を利用した小金井地域応援キャンペーンについて・コロナウイルス感染対策における衛生学について・コロナウイルス感染対策における生活マナーについて・コロナウイルス感染予防について・コロナワクチンの接種予約について・コロナウイルスの検査機について・コロナウイルス感染症の治療薬について・コロナウイルス感染対策におけるマスクの効用について・ごみ非常事態宣言・生ごみの堆肥化について・新庁舎及び（仮称）新福祉会館について・宇宙関連の話題の提案について・公園でのハトの餌まきについて
懇談内容	別紙のとおり
その他	手話通訳者 2名 保育士 1名

令和3年度第4回市民と市長の座談会

令和3年11月18日

1 開 会

○司会者

それでは皆さん、こんばんは。本日は、御参加いただきまして誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます広報秘書課長の廣田と申します。よろしくお願いたします。新型コロナウイルス感染症の防止対策としまして、マスク着用のまま着座にて進行させていただきますので、御了承お願いたします。

まず初めに、配付物の確認をさせていただきたいと思います。まず、次第が1枚目にございます。続きましてアンケートございます、こちら最後の時間にお書きになって御提出ください。あと、「令和3年度施政方針」ということで冊子になっている、こちらのものです。続きまして、令和3年度の小金井市予算の概要という、こちらの冊子になっているもので、15ページから30ページのものを抜粋したものでございます。続きまして、横長の小金井市における新型コロナワクチンの接種状況ということで、こちらが11月17日現在のものになります。続いて、こちら年代別のワクチンの接種状況ということで、こちらが11月14日現在ということで資料になります。続きまして、両面刷りで「新型コロナウイルス感染症 小金井市緊急対応方針（第7弾）」というこちらの資料になります。

続きまして、令和3年第3回小金井市議会定例会予算における新型コロナウイルス感染症対策についてのこちらの資料、こちら両面刷りになります。続きまして、「生活必需品をお届けします」ということで自宅療養者向けのお知らせになります。次が、横長の「こがねい地域応援券をお届けします」という、こちら、市報10月15日号にも載っているものでございます。それを抜粋したものです。こちら、コロナ差別に関するチラシになります。続いて、令和3年度犯罪被害者週間行事ということで、こちらのお知らせになります。あとは、最後の障害者週間のチラシになります。以上が皆さんにお配りした資料です。受付でもほかの資料をお配りしていますので、もしよろしければこちらのほうもお帰りのときに手にしていただければと思います。以上となります。もし過不足ございましたら事務局のほうにお知らせください。

それでは、開催に当たりまして、事務局より御説明申し上げます。本日の進め方ござ

いますけれども、まずは、初めに市政報告ということで、重要課題の進捗状況等につきまして、市長の西岡より簡単に御報告させていただきます。その後、意見交換という形になりますが、今年度は新型コロナウイルス感染症についてというのをテーマに皆さんから御発言いただきまして、それに対して市長がお答えするという形で基本的には進めさせていただきたいと思っております。それでは、本題に入る前に、事務局より5点ほど御了承いただきたいと存じます。まずは、議事録作成のために録音をさせていただいております。2点目は、懇談の様子を撮影した写真のほうをホームページに掲載させていただきますので、御了承いただければと思います。あとは、懇談中は御発言される時はマスク着用をお願いできればと思います。その際、発言する際にマイクをお渡しするんですけども、その都度消毒いたしますので、ちょっとお時間をいただくことがありますけども、御了承ください。あと、本日の終了時刻は午後8時までとなっております。会場の都合上、時間きっちりに出なければいけませんので、そういう形の時間調整をさせていただきたいと思っておりますので、御協力をお願いいたします。

それでは、次第に従いまして、まずは市長の西岡より御挨拶と市政報告をさせていただきます。

2 市長あいさつ（市政報告）

○西岡市長

皆様こんばんは。小金井市長の西岡真一郎でございます。本日は大変お忙しい中、また、昨今めっきり寒くなってまいりました。とても寒い中、わざわざ市民と市長の座談会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。この後は着座にてお話をさせていただきますので、御理解ください。また、感染予防が今、求められておりますので、マスク着用のままの発言となりますので、どうかお許しください。市長就任以来、毎年、年4回、この市民と市長の座談会を開催しているところでございます。この座談会の中では皆様方から様々なことにつきまして御意見をいただき、そのお声を市政運営の参考にしたいと考えて、開催してまいりました。今回のテーマは、新型コロナウイルス感染症対策ということがテーマとなっております。ワクチン接種、感染防止対策、あるいはコロナに関係する様々な支援策。いろいろな思いが皆様方にもあろうかと思っております。今を生きる私たちが初

めて経験している、このパンデミック、新型コロナウイルスの感染拡大に直面をして、もう1年半以上かかって経験をしている、長い間、様々な制約を受けながらの生活が続いています。小金井市の感染予防、感染拡大防止策に御理解、御協力をいただいておりますことに、改めて御礼と感謝を申し上げます。皆様ありがとうございます。それでは冒頭、20分ほどお時間をいただきまして、新型コロナウイルス感染拡大の今の状況や取組、ワクチン接種の状況、今後の3回目のブースター接種の状況、その他市政の中で、ぜひこの機会にお伝えをさせていただきたいことなど、私のほうからお話をさせていただきたいと存じます。現在、東京都では、基本的対策徹底期間ということとなっております。おかげさまで、第5波、あのときの非常に厳しい感染状況から比べますと、今は実に落ち着いた状況となっております。小金井市の感染状況も、12日間連続で、今、新規陽性者数がゼロという状況が続いております。また、第5波のときには、自宅療養者の方が小金井市内にも最大390名ぐらいにまでなったときがありましたが、今は非常に落ち着いている状況となっております。ちなみに、小金井市の累計患者数は、11月16日時点で2,175名となっております。そのうち退院等された方が、11月16日時点では2,175名なので、現在、小金井市内で、療養者も0名ということになります。この状況がずっと続くということをお願いしております。ちなみにこの2,175名を小金井市の人口で単純計算いたしますと、57人に1人という方が感染したという結果と言えます。行政といたしましては、専門家の方々からも従来から御指摘はあるんですが、第6波というものが懸念をされております。この第6波は発生し得るという想定をして、今、この鎮静のときにできる準備をしっかりと整えていくということが求められています。第6波に備えながら、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図るということが、今求められている行政だというふうに思っております。引き続き、市民や事業者の皆様方におかれましては、最大限の感染予防に努めていただきますよう、お願い申し上げます。そして、私はこの感染拡大を防止する唯一の切り札である、ワクチンの接種を安全かつ迅速に進めていくため、小金井市におきましては、ワクチン接種を小金井市の最優先事業と位置づけました。そして、小金井市医師会、薬剤師会、訪問看護連絡会、また従事される看護師などの皆様と、この間、緊密な連携をとりまして、ワクチン接種事業を全力で推進してまいりました。11月17日現在の小金井市の接種状況になりますが、資料としてお配りをしておりますが、医療従事者は、もうほぼ、98%の方が接種を終えて、65歳以上の高齢者の方は、接種率92%、そして2回目もほぼ完了して92%。そして、12歳から64歳までの一般の方も、81%の方が2回目

の接種を受ける段階となっております。小金井市も、東京都内におきましてはかなりワクチンの接種は順調に進んでおる自治体となっております、特に御尽力いただいている医師会、その関係者の方々には、心から御礼と感謝を申し上げます。お手元の資料に、A4横の年代別接種一覧という資料がございます。資料が重なって申し訳ございません。それを御覧ください。これが先日の日曜の時点までの最新の小金井市民の皆様方の接種状況です。12歳以上の全ての対象者のうち、83.52%の方がワクチンの接種2回を終えました。そして、従来からずっと課題となっております、10代、20代、30代、若い世代の方々の接種率の低下がかなり懸念をされておりました。もちろんワクチンは、これは強制ではないですし、義務でもありません。もちろん希望する方が接種する任意のワクチン接種であることは言うまでもありません。しかし、集団免疫を獲得する上では、高い接種率も必要ということは従来から専門家からも指摘をされており、7割以上の方々の接種を求められているということになります。小金井市と小金井市医師会の皆様方、薬剤師会の皆様方とは、昨年の12月からワクチン連絡会という会議体を設立いたしまして、ずっと2週間に一遍程度、継続して会議を行ってまいりまして、事前準備から今日に至るまで、継続して協議しています。私も副市長も教育長も、この会議には必ず出席をさせていただいております。そのときに私たちが掲げた目標は80%です。12歳以上の全対象者のうち80%以上の方がワクチンの接種を終えることを目標といたしました。これは途中、御承知のように変異株という、大変感染力の強い幾つもの変異株が登場しました。これからも新しい変異株が誕生するものと思われまます。ウイルスはどんどんどんどん進化をしていくものであります。そういった中で、今回私たちは、10月末までに80%を終えようということを目指にしまして、何とか10月31日までの間にこの目標80%は達成することができました。そして、若い世代の方々の接種率も、12歳から14歳、中学生ですね、70%の方が2回終了しています。15歳から19歳、この年代、非常に高いのですが、主に高校生に当たるのですが、79.83%、恐らく8割を超えてきています。20代の方々も、若干低いのですが、73.34%。30代の方は79.32%ということで、このままいくと8割を超えていくというふうなことです。そして現在もワクチン接種は継続しております、現在、保健センターで接種をするとともに、幾つかの医療機関での接種をいただいております。まずは1月31日までは、保健センターでワクチンの接種を継続しておりますので、未接種者の方々はこちらの会場などを活用していただきたいと存じます。

今はまだ予約が埋まっています。水曜日、土曜日はワクチン接種しているんですが、大

体、1週間で、水・土含めると毎週200人ちょっと、250人ぐらいの方々が継続してファイザーワクチンを打っていただいているというふうになっています。外国から帰国した方もいらっしゃるれば、もちろんこれまでは慎重であったけれども接種することに決めたという方も、様々な方いらっしゃると思いますが、継続してワクチンの接種に取り組んでいます。

小金井市のワクチンの接種が非常に順調に進んだ理由は幾つかあるのですが、それはワクチンの確保に善処されたということがあります。そして、何よりも、小金井は個別接種と集団接種のハイブリッド、両方やったのです。小金井市内では50か所もの小児専門、診療所でワクチンを接種していただきました。それが非常に大きかったと思います。それだけきめ細かく接種をしていただきましたし、皆様方に身近な病院で接種ができましたし、50か所の病院などを通じてワクチン接種の正しい情報を伝えていただいた。それから、様々な啓発事業にも取り組んだということもあると思いますし、実にいろんなことに取り組みました。ワクチンのガイドブックを活用したり、医師会の先生方にポスターをつくっていただいたり、駅頭キャンペーンをやったり動画を配信したり、市報「こがねい」ではほぼ一面を使って、常にワクチン接種のニュースを特集に取り組ませてまいりました。大変、努力してまいりました。またもう一つは駅前ですね。駅前の利便性の高い接種会場をつくりました。特に旧西友ビルにおきましては、ムサコの北口ですね、モデルナを活用した大規模接種に基底的自治体がありましたので手を挙げまして、厚生労働省から約3万5,000回分のモデルナのワクチンを確保して市民限定で、駅前で約1万7,500人の方々にワクチンの接種ができました。これが非常に大きかったと考えているわけです。その後は宮地楽器ホールを使って、ファイザーのワクチン接種を行わせていただいたという状況でございます。今後は、3回目のワクチンの接種の準備を今、鋭意進めております。12月からは、医療従事者の方々を先行して、3回目のブースター接種がスタートします。そして、年が明けて1月からは、いよいよ65歳以上の高齢者の方々から順次接種します。今のところは、ワクチン3回目は接種後からおおむね8か月後、経過した方から接種するということになってございます。一方では国のほうからは、6か月後につきましても、特別な事情がある場合には接種も認めていくと、これ厚生労働省と協議が必要ということになっているんですが、そういう道もあります。今、いろいろと担当共々私どもも、いろんな協議をしながら、できればその希望する方がなるべく早く接種できるようにしたい。期間を超えることはできませんね、6か月以上8か月以上、もっと前倒しすることは無理ですけれども、国が示している期間で、なるべくしっかり早めに打てるようにするというこ

とを、ぜひ取り組んでまいりたいと思っております。継続で準備をしております。最初の皆様方には、自分が接種の時期、接種する、具体的に3回目を打つ対象になる、その1か月前には接種券をお送りいたします。なので、その接種券が届いたら、翌月以降から自分は打てるのだなというふうに思っただいて、もちろんその中にはいろいろと説明を添えてございますので、御覧いただければと思いますということになります。また、現在、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響から市民生活を守ることを最優先とする方針の下、いのち、くらし、地域、市民サービスの基盤を守るために、小金井市は緊急対応方針というものをつくっており、資料としてもお配りしております。緊急対応方針第7弾というものを御覧いただきたいと思っております。第7弾まで作成。実にいろいろなことにこの間、取り組ませていただきました。現在取り組んでいる代表的なものとしては、全市民の皆様へ、1人2,500円分の「こがねい地域応援券」をお届けさせていただきました。11月13日から、もう使用ができるようになっております。既に御利用、御活用いただいた方もいらっしゃるかと思います。そして、来年の1月からは、スマホでいわゆるキャッシュレス決済をするときに、P a y P a y という事業者がありますが、そのP a y P a y を活用して、スマホでキャッシュレス決済をした方には、上限1万円までお買物をした方には3,000円分のポイントを還元するという事業も、1月の1か月間限定で行っていただきます。小金井地域応援券の予算規模は約3億4,000万円。そしてキャッシュレス決済の事業が約1億4,000万円で、総額約5億円に及ぶ、小金井市の市政の歴史の中で恐らくは、局所的には最大規模となる経済対策を実施していきます。これは消費の喚起というのがありますし、大変厳しい状況に置かれている事業者の皆様への支援にもつなげてまいりたいと思っておりますし、また、市民生活を支える一助にもなればということで、地域経済の活性化につながっていくことを願っているところです。その他、自宅療養者等への支援、接触者外来等設備整備の補助、PCR検査の支援、子育て世帯への支援、介護予防・フレイル予防活動の支援などに取り組んでまいります。特に、今後第6波が発生するというのを、それを明確に想定することは難しいのですが、ワクチン接種がかなり進んでおりますので、重症者患者というのは減少することを期待いたします。しかし、その分、自宅療養者が必ず増えるという、なので小金井市はかなり早い段階で、市独自の自宅療養者支援というものに取り組んでおります。お手元に資料として、自宅療養者の支援パンフレットをお配りさせていただいております。これは既にかなりの方々へ御利用いただいております。小金井市の独自の支援の内容は、いわゆる陽性患者となった方だけで

はなくて、濃厚接触者と特定された方も対象にしてございます。食料品やパルスオキシメーターなどを無償でお貸しいたします。食料品もお届けをいたします。そして、新しいメニューとして買物代行というものも、予算を御議決いただきましたので、どうしても、今、若い方などはネットでいろんなものを注文して、今やもう、インターネットを使うというんな物が自宅に届く時代になっているのですが、必ずしもそういったツールを誰もが利用できるわけではありません。全くスマホなどを通じて利用できない方もいらっしゃるの、そういった方々のために、代わりに必要なものを買物に行く。お支払いは後ほど、一定期間が経過してから。立替えをしてお買物をして、そして、後ほどお支払いをしていただく、振り込んでいただくという買物代行の支援策を構築いたしましたので、こういったものを第6波に備えて今、準備をしているという状況でございます。そのほかにもいろいろありますが、時間の関係で割愛させていただきたいと思っております。そして今日は、新型コロナウイルス感染対策、実にいろいろなところから、皆様方からのいろんな御意見・御要望をお聞かせさせていただきたいと思っておりますし、市に対する注文、あるいは厳しい御指摘も多々あろうかと思っております。しかし、小金井市の場合は、市内に大病院がありません。また、市の中に所管する小金井市の保健所というものがあるわけでもありません。そういう状況の中で、私たちは、医師会、薬剤師会、訪問看護連絡会などの方々と緊密に連携をしながら、感染症対策に全力で取り組んでまいりました。これからも、市民の皆様方の命と健康、地域の医療提供体制を守るために、引き続き全力で努力してまいりたいと思っております。

コロナ以外のところを、少し駆け足になりますが御報告いたします。

今、小金井市の人口になりますが、微増傾向がずっと続いております。令和3年の4月の1日時点での小金井市の人口は12万4,078人です。1年前には12万2,542人だったのです。1年間で1,536人、人口が増えました。この人口増は1.25増なのです。実はこの人口増が、令和2年度、東京都内の62市区町村の中で小金井市が初めて人口増加率が1位になりました。主にはファミリー世代の方々の転入超過という状況でありまして、それは私、市長といたしましては、子育て世代の方々の転入ということであれば、それは非常にありがたいことだと思っております。これからも選ばれるまち、住み続けたいと願える小金井市を目指して、一生懸命努力してまいります。また、現在の新庁舎、(仮称)新福社会館の複合施設建設につきましては、実施設計に今、取り組んでいるところであります。市議会の方々からも様々な御意見をいただいているところでありますが、市長といたしましては、長年の課題でありますので、市議会や市民の皆様方

の御理解をいただけるように、この建設が必ず実現するように、全力を尽くしてまいりたいと考えています。小金井市の長年の課題ということで申し上げます、可燃ごみの処理がございまして、13年間にも及び、小金井は自前の可燃ごみ処理施設を持っておりませんでしたので、長きにわたりまして多摩地域の様々な方々に小金井市の市民の方々の可燃ごみの処理をお願いして支援をしていただきました。しかし、おかげさまで、昨年4月に日野市内で、小金井、国分寺市、日野市のこの3市で設立した浅川清流環境組合による新しい可燃ごみ処理施設が本格稼働いたしました。ということで、13年間の長きにわたる広域支援が終了いたしました。その結果、「ごみ非常事態宣言」というスローガンは終了いたしまして、新しいスローガンを掲げさせていただきました。資源循環型都市「ごみゼロタウン小金井～ごみを出さないライフスタイルへ～」ということで、新しいスローガンを掲げまして、今まで掲げていた横断幕は全て新しいスローガンに変更させていただきました。

駅周辺のまちづくりを推進してまいりました。おかげさまで武蔵小金井駅南口の第2地区市街地再開発事業は昨年6月に完成いたしました。新しく「SOCOLA武蔵小金井」でクロスコートという広場が誕生いたしまして、今、大変賑わっているところということでもあります。そして東小金井駅北口の土地区画整理事業につきましても事業を進めてまいりまして、北口のロータリーも新しいロータリーとして生まれ変わりました。バスを待つときに雨にぬれないように、上屋根、ロータリーの中にも奉仕団体の方々から時計塔を頂きました。シルバー三面の時計塔、5メートルの時計塔を設置しております。また、5本のコガネイウスベニザクラという桜の苗を植えたり、周囲にツツジを植栽しているということで、北口も新しくなってきました。今後のまちづくりは、私は市長として駅周辺のまちづくりを進めてまいりまして、これからも進めてまいるのですが、新しいまちづくりがいよいよスタートいたします。武蔵小金井北口の新たなまちづくりにつきましては、本年3月に武蔵小金井駅北口駅前東地区市街地再開発準備組合が結成をされました。再開発事業などによるまちづくりの検討が進められておりまして、小金井市の玄関口になります、ムサコの北口、小金井市といたしましても引き続きのご支援をさせていただきます。また、二枚橋の跡地では、新しい清掃関連施設の工事をスタートいたしました。ここでは粗大ごみの手解体やプラスチックごみの積み替えなど、新しい資源循環型社会に向けた処理施設、不燃系の清掃関連施設の工事が開始しました。そしてその後は、貫井北町の間処理場につきましても、今ある施設を解体し、新しい施設、こちらではびん、缶、ペットなどを主に処理する施設を造ります。小金井市のごみ問題はかなり大きな課題がありましたけれど

も、不燃系の清掃関連施設を2つの場所に再整備すると。いずれも30年間にわたり利用する施設になります。こちらにつきましては、着々と準備を進めていただいているところでございます。

その他の様々な課題もありますが、時間の関係上、主なことまでとさせていただきたいと思っております。この後は時間の許す限り、市民の皆様方から様々な御意見、御要望、お声をお聞かせいただきたいと思います。それでは皆様、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございます。

3 懇 談

○司会者

それでは、意見交換に入らせていただきます。テーマは新型コロナウイルス感染症についてでございます。感染症対策全般のことであつたりとか、あとワクチン接種のことですね。そのほか、生活支援とか経済対策といった点、またはアフターコロナに関することなど、様々なコロナのことがあると思ひます。コロナの影響で困っていることとか、また、感じたことなど、率直な御意見をお伺ひできればと思ひます。

それでは、御意見のある方、順番にお伺ひしますので、挙手のほうをお願いいたします。いかがでしょうか。

○市民A

今日はこういう席を設けていただきありがとうございます。前々回に市報のほうで、市長さんとお話ができるということで、ちょっと楽しみにしていたんですが、それも中止になりました。それで2回目も中止ということで、今回3回目は私、市報で見逃してしまして、昨日かおとといかにこちらの担当者の方からお電話いただき、よかったと思ひています。それで、今回ちょっとコロナの件と、ほかにちょっとお話を聞いていただきたいことがあるのですけれども、私もそれほど、小金井市の皆様がコロナのことをどのぐらいのことまでやってくださっているのかは、ちょっと細かくは分からないのですけれども、うちにはわんちゃんがいるので、夕方には必ずお散歩をするんですね。そうしますと4時ぐらいですかね、放送が流れてきまして、4時でしたっけ。

○西岡市長

4時半ぐらい、5時か4時半。時間は季節によって変わります。

○市民A

そうですね。毎回同じですよ。それで、わんちゃんのお母さん方とも集まって話を道路でしたりするのですけれど、そうしたときに、あ、また同じだといって、もう耳に入ってきて入ってこなくても、何かこう、危機感がなくなってくるというんでしょうね。ただ、私はこれは小金井市だけの問題、小金井市でこういう放送をつくったのかって、ちょっとその辺も確かめてはいないんですけれども、ちょっとよそへ、府中市のほうに行ったときにもやっぱり同じような感じで流れていたもので、これはいわゆる東京都での流し方ということで、皆さんというかどの市もやっていたんでしょうか。

○西岡市長

御質問はどうぞ何度でもやってくださいね。今の1回お答えいたします。御参加いただきましてありがとうございます。あれは防災行政無線と申しまして、防災行政無線を活用して、今の緊急事態宣言で発令中ということで、市民の皆様方に、感染拡大の防止にぜひ取り組んでくださいということ呼びかけるために活用させていただきました。これはほとんどの市がやはり同じようなことをやっていました。東京都からも、こういう取組も、例えば防災行政無線を使って呼びかける取組もぜひやっただけかという東京都からの要望もありました。しかし、判断するのは市です。どんなアナウンスにするかを決めるのも市です。同じようなフレーズがずっと続いていたということで、大変御迷惑をおかけいたしました。途中、何度か変えたときもありますが、基本的には東京都から発令されている緊急事態宣言であったりとか、リバウンド防止措置下であったりとか、幾つものフェーズがあります。そのフェーズに合わせて切替えるわけですね。危機感がちょっと薄らいでしまうという御指摘は、しっかり受け止めさせていただきます。また、この防災行政無線というのはあまり長いと市民の方からクレームも来たりします。なので、なるべく短めに、そしてポイントを分かりやすく、何を市民の方をお願いしたいのか、何を伝えたいのかということを確認にした上でお伝えすることを心がけたつもりであります。しかし、確かに1か月くらいにわたって同じフレーズになると、正直飽きてしまうとか、緊張感なくなってしまうという声は実際にありました。なので、今後はこういう放送をしないことが

一番望ましいですけれども、もしもまた第6波が来て、防災行政無線を活用するときには、そのアナウンスの内容については十分配慮したり工夫したいと思います。ありがとうございます。

○市民A

ありがとうございました。それで、私独自でちょっと感じたのは、例えばその日は何人感染者の方が出たとか、そういった数字みたいなものは、放送で流れたことはあるんでしょうか。

○西岡市長

放送で感染者数を発表したということはないです。

○市民A

例えばそういうことを流すということはまずいことでしょうか。

○西岡市長

いや、決してまずくはないと思います。ただ、この防災行政無線は録音した音声を流していくというシステムになっているものですから、毎日マイクの前でしゃべるということのスタイルは取ってはいなかったんですね。しかし、感染状況があまりにも深刻であれば、例えば毎日ではなくても1週間単位とか、少し間隔を開けても、感染者数、これだけ大変感染者数が増えているということをお伝えするというのも、必要があればぜひ取り組ませていただきたいとは存じます。

○市民A

こちら、私たちが聞きたいのが、やはり生の声でお話ししていただくと、やっぱりその緊迫感というのはちょっと違うと思うんですね。それで、悪いことだけの報告というか流すことでなくて、昨日よりも確かに、テレビなんかでも皆さんいつもやっていますよね、先週よりも今週の曜日のほうが少なくなったと。だからちょっとそんなようなことをちょこっと入れて、長い文章でなくて本当に、入れていただいたりとか、あと、駅のところに、例えば何かの、本当にお金をかけないようなものでもいいんですけれども、感染者数がち

よっとこのぐらいだったけれども、あしたは皆さん、協力して頑張りましょうみたいな、ちょっと一言添えたものとか、あと市役所にそういう、何かこう、毎日というか1週間に1回でもよろしいですけども、何かそういったものを置いてもらってもいいかなというのは、私個人で思ったことなんですけれども。

○西岡市長

ありがとうございます。御提言をいただいたものを受け止めさせていただきます。ただ、小金井市のほうでもホームページでは毎日必ず公表していて、目立つところに毎日のように更新して、今も毎日更新していますね。また、新聞社などのメディアを通じて、ほぼ今、多摩版などの大手6紙などはほとんどのメディアや新聞社が毎日、市区町村別の感染者数を挙げていたり、東京都が発表しているんですね。なので市として、駅の前とか、今、市役所でとおっしゃいましたけれども、感染状況なんかさがさらに深刻さを増してしまうという状況にあるときには、市民の方々にも緊張感を持っていただくという意味では非常に一層工夫はしてまいりたいと思います。御提言ありがとうございます。

○市民A

私だけでもまた質問してよろしいでしょうか。

○西岡市長

何回でもできるので、一旦じゃあ。

○市民B

東町の〇〇と申します。定員が20名なので、これだけとはちょっと寂しいかなという気がしますけれども、本当にいい機会を設けていただきましたので、5つほど質問させていただきます。1つ目は、23区でも、小金井市と同じように非常に接種率が高い区があるというふうに聞いておりますが、それがどこであるかというのをちょっと教えていただきたいということが1つです。2つ目は、自宅療養者へのいろんな支援ということなのですが、うちの場合は、連れ合いと2人だけ。すぐそばに娘の家族がいまして、2世帯家族みたいな感じ、家自身はちょっと違うんですけども。そうすると、自宅療養すると家庭内感染が心配されるということで、独り住まいの方はいろんな支援が必要かとは思いますが

けれども、家庭内で何人かいるときに1人だけ感染したという場合は、どちらかというところホテル療養のほうを望むことがあるんですけども、そういうことが小金井の場合は可能かどうかというのが2つ目。3つ目は、私は実はかなり早く1回目、2回目接種しました。2回目を5月の19日に接種しましたので、非常に早いほうで、もうそろそろ8か月になるところなので、12月には接種券が来て、1月に接種というような、そういうスケジュールになるかと思うんですが、連れ合いの〇〇は、私の様子を見てから接種するというので、1か月半ほど遅れて接種しました。となると、私に来る接種券の時期と女房に来る接種券の時期というのはやっぱりずれてくるんでしょうか。それが3つ目。4つ目は、先ほどスマホの決裁をすれば補助するというので、1億4,000万の補助をするということですけど、スマホを持ってない人とかもおられると思うんですよね。そういう方に対してのこの補助は一体どういうふうになるんでしょうかということが4つ目。5つ目は、ごみ処理の話で、非常事態宣言は終了しましたということをおっしゃいましたが、私今、自宅で生ごみを処理機で処理してまして、1週間に一遍、火曜日に、こちらの辺りですね、市役所の方に取りに来ていただいているんですけども、その処理機を買うときに市の補助があったんですが、この非常事態宣言を終了すると、この生ごみを自宅で処理するという行為はもうなくなるんでしょうか。それから、いや、それはあるけども、処理機を購入するときの市役所の補助はなくなるんでしょうかということをお聞きしたいと思いますが、よろしくお願いします。

○西岡市長

それでは、一番最後の質問は、ちょっとコロナとは違うところなので、一旦まずコロナでやらせていただいて、最後の残された時間でコロナ以外のことをお聞きしますので、そのときに一番最初にお答えしますね。まずはコロナに絞らせていただきます。まず、23区で接種率の高い区は墨田区です。これはメディアからも、マスコミからも報道されているところでもあります。ワクチンの接種率が非常に高いですね。それから、自宅療養者支援、やはり小金井市民の方でもホテルの療養施設を活用することは可能です。ホテルの設置は、これは東京都が行っています。私も、家庭内感染を防ぐということはもちろん重要な観点でありますから、ホテル療養というのは非常に重要な視点です。東京都多摩地域に幾つかつくってました。今もあります。今、吉祥寺のほうにホテル療養所があると思います。ただ、利用している人は今少ないとは思いますが。いわゆる宿泊療養施設は非常に重要とい

うことで、多摩府中保健所管内の6市の市長で、小池東京都知事宛に多摩地域にもぜひホテルを増やすべきだということは要請しました。東京都の方に頑張ってくださいまして、これまで八王子と稲城とつくっていただきました。小金井市内には、その宿泊療養施設となるようなホテルがないので、市内のホテルは難しいのですけれども、多摩地域にホテルはありますし、もちろん市民の方が23区、多摩地域のホテルを利用することは可能ですし、実際に利用している方もいらっしゃいます。しかし、これは数にやっぱり限りがありますから、しっかりとした施設を確保していただきたいと、しっかりと東京都には要望しているところでございます。それから、ワクチン接種ですね。奥様も御質問者の方から1か月半後に打たれたということなので、やはり1か月から2か月後、今ちょっと明確には分からないんですけれども、遅れて接種ということになります。それから、スマホですね。Pay Payというアプリを使います。私もインストールしてみて、時々使っています。いろんなアプリがあるんですね。今は、それこそSuicaもあれば、Pay Payもありまして、いろいろなアプリがありますが、入札の結果、小金井ではPay Payになりました。今お配りしている小金井市の地域応援券は、参考までに申し上げますと、市内で398店舗で、400店舗で利用することができます。これはお配りしているものの一覧表をつけておりますし、その後、数店舗増えていきますので、商工会のホームページを見ていただくと利用できる店舗が検索できます。このPay Payが利用できる店舗は現時点で約900店舗と聞いております。このスマホの決裁などがなかなかできない方がいらっしゃることは承知しておりますので、そういった方々をフォローアップする講座とか、チラシとかお知らせとか、これを12月中にお配りしたり広報させていただきたいということで今、準備をしているところでございます。まずは冒頭、私からは以上です。以上でよろしいですか。再質問があれば。大丈夫ですか。

○市民B

結構です。

○司会者

続いて御質問のある方、まだ1回目ですらっしゃいますか。

○市民C

前回言ったのかもしれないけれど、私、社会人になった瞬間から衛生学というの、衛生学がどんどんどんどん右肩上がりです。優秀な衛生学が育っていると。そうすると、それと逆比例して、自分の免疫力が下がってくると思うんだよね。だって、自分の体に感染症の菌が入ったとき、守るのは衛生学でやった薬なんか信用できないよ。だから今のコロナの問題でも、私は、世界中でワクチンがどうのこうのというのは、私はあれ信用してないんで、だから初めから私は、ワクチンなんかはもう見もしない、何の治療もしてない。それで、社会人になったときから、そういう抵抗力と衛生学と、これが逆へ行くというのは大体漠然と知ってましたので、だからとにかく、ワクチンだけが重要だとか、そういうものは一切やってません。それで76年間無病息災ですから。今度は第6波がどうのこうのという。第6波が来たら第6波のワクチン、また買わなきゃならないじゃないですか。だったら、そんなものいつまで繰り返したってしょうがないから、もう自分の免疫抵抗力を鍛えるよりかないんじゃないかな。私が選んだ選択が正しいかどうか、それは誰も分からんけど、今まで76年間無病息災の実績がありますから、その間にはエボラ出血熱、いろんな感染症が出てきましたけど、全然もう関係なく生きてる。今、ここにいる皆さんのお年からすると、僕、社会人になった瞬間からって、もう時間的に間に合わないんで。だから、そういうような人は今の優秀な衛生学に従ってくださいと思って。私も確かに気をつけますけどね、衛生学は信じません。

○西岡市長

御意見いただきましてありがとうございます。76年間無病息災ということで、立派なことだと思っております。素晴らしいことだと思います。本当に健康が何よりも大事なものですし、新型コロナウイルスの感染拡大が発生して、本当に健康であるとか、また、昨今は免疫力というものが大変着目されています。それは事実だと思います。免疫力の向上、あれはいろいろな研究がありますし、いろんなことを皆さん実践されていますね。確かに免疫力というのは非常に重要な抗体とも言いましょうか。このことは今回のコロナウイルスによる感染拡大の発生によって学ばせていただいたと思います。ぜひ、御質問者の方に、免疫力アップの何か秘訣があれば今度教えてください。よろしく申し上げます。

○市民C

意見というか、具体例。今、ちょっと具体例を忘れていましたけど、例えば庭いじりす

るときにみんな軍手はめるでしょう。だけど私は庭いじりするとき軍手は一切使わないんですよ。素手でやるんですよ。それからまた、電車に乗るときに駅で、階段があるでしょう。階段を、まだエレベーターなどやエスカレーターがない時代は階段を必ず、手すりを使いましたね。手すりというのは一番ばい菌がつくんですよ。だから手すりを使ってわざとばい菌をつけるっちゃおかしいけど。それからまた、電車に乗るとつり革はすぐつかまるし、当然、前に誰が触ったんだか分からないようなつり革だから、どんなばい菌がつくんだろうが知らないけど。今度、第6波というのは未知数ですよ。どんなウイルスがつくんだか分からない。だったら、また新しいワクチンを打ち直したと。そんなことやっているより自分の免疫抵抗力をつけるのが、私は正解だったと思うんですよ。だから76年間、それで正解を貫いてきたから何とか無病息災でいられるんだと思うんですよ。今からだってそんな遅くないですよ。みんな衛生学を信じるより自分の体の免疫抵抗力を鍛えたほうがはるかにいいんじゃないかと思うよ。

○西岡市長

御意見いただきましてありがとうございます。ほかにありましたらどうぞ。

○市民D

このたびは、生の声という、市報とか読ませていただいて、こういう会議を開いていただき本当に感謝させていただいております。まずは、いっぱいあったんですけども、コロナに関してのことに関して質問させていただきたいと思います。今、東京都で初めて聞いて、7割のワクチンを目指しているということで、私はマナーに関しては7割というよりも、マスクと同じぐらいに、ワクチンの安全性という、九十何%という、今お答えしていただいて、こういう、ワクチンを打った後の気密性の安全性が、いかにその1回目、2回目というように新聞で書かれているものを読んでいるんですけども、そういうことに関しては私も免疫もそうなんですけれども、自分としては、最初の頃はそういうワクチンも知らないで、都庁のお話を受けて、キウイとかいろんな、バナナとかそういう食べ物で何とかしのごうという、何とかしのげれば道は開けるのではないかということで、ファイザー、モデルナ、いろんなワクチンができて、即50代で打たせていただいたんですけども、それに対しての、これからの小金井に関して求めれば、安心な暮らしを、全てに対してなんですけれども、バスは、今、自宅にすることが多いので、バスの中、電車の中、

未知数なテレビでの放送でしか視野が開けないという、そういう未知なることに関して、大きなほうで言えば、こちらにもアンケート書いて、今度はどこのまちで開けばとって宮地楽器などで何回か当たって、皆さんでの市長との声も含めての市民の生の声で、その始まる前とか始まっている間にお聞きしたいという価値ある言葉か内容でも含めての意義ある意味合いに関しての、ここは安堵感が今、強く、皆様の声を言葉を通じてひしひしと感じたというのが率直な意見です。あとは、ホームページはおろそかにしているのですが、新聞、メディアでのそういう言葉を聞いて、早く、コロナ終わってもマスクをしている、花粉とかインフルエンザとか含めて、子どもたちはマナーのある、違った観念に基づいての小金井のあらゆる、小金井から始まってもいいんですけども、新しい、マナーのある子どもの新しいのびのびとした生活環境及び含めての大人、高齢者の方々の小金井の普通のまちをつくっていただければと思っております。あとは、後々、このアンケートに答えていただいた、何を市民が求めているかを、これからはこういう、何と言いますか、市報にこういう価値ある会議があるということが、私も、この間もずっと前には行かせてもらったんですけども、見損ねてしまった自分が一番いけないんですけど、すごく、何と言いますかね、すばらしいものを今日は得たと思ったので、これからもさらに引き続いてこういう会議を開いていただければと思っています。コロナに関してはこの辺で終わりたいと思います。ありがとうございました。

○西岡市長

貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。ワクチン接種は、小金井市は接種率80%を目標にしてまいりました。現在、84%になっています。今も、未接種者の方々への接種を続けていますので、最終的にはどうでしょう、85%ぐらいになるのではないかなと、85%は超えるのではないかなというふうな見通しではあります。

そして今後は3回目のワクチン接種の準備に今、取り組んでおりまして、来月からいよいよスタートするという状況でございます。引き続き、希望する方に迅速に、そして安心安全に接種ができるように、医師会、薬剤師会、訪問看護連絡会の皆様方と連携をして、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。それから、市民の皆様方のマナーを守っていただけるような、そういう小金井市であってほしいという御要望ですかね。

○市民D

ええ、広がったコロナ禍に関しては、私たちは地球が1つになってコロナで、またまた戦争とかいんなことは何も起こらなくて平和というか、すばらしく広がっていけばと思っているというのが、NPOなどの方も連携して充実して、そういうのが。

○西岡市長

コロナが起きても混乱がないように。

○市民D

はい、それが終わっても。

○西岡市長

平和なまち。そういうことになっているんですけども。

○市民D

平和な、マスクをしていても手を洗っていても、子どもが、高齢者でも大人でも学んでいく、子どもだけでなく大人が子どもから、だから上手な人がいたらそれを学ぶ、下手な人が上手な人に学ぶようにする、今、それと、11月の暦が出ているように、それが広がっていけば、何という、地球はよかったんだろうなというような、大規模なんですけど、まずは小金井からよくしていただきたいという希望です。

○西岡市長

貴重な御意見ありがとうございます。

○市民D

いえ、こちらこそ。

○西岡市長

しばらくはこのマスクや手洗い、それから3密回避、ソーシャルディスタンス、基本的な感染予防というのはしばらくは続くと思います。しっかりこのマスク、手洗いをやったことが、はっきりとした原因とは言えないまでも、間違いなく去年はインフルエンザの患

者さんが非常に少なかったと医師会からお伺いできました。なので、これほどの多くの方々が全市民的に、いわゆるインフルエンザなどもその感染予防が必要なわけですが、非常に効果があったのではないかなと。極めて少なかったと聞いています。現在も、インフルエンザの予防接種を今、病院で行っていただいております。昨年に比べると若干インフルエンザのワクチンの供給が今年少ないという状況はあるものの、かなり多くの方々、インフルエンザのワクチン接種も多くの方々接種されているという状況があります。

御指摘のようにこういうパンデミックが発生しても、平和な社会になるように、特に小金井というまちがどんな状況にあっても、平和なまちであるようにと思います。私も同じ思いです。

それから、こういう会は続けていただきたいということでありましたけれども、市民の皆様方との会話をする機会というのはいろいろな場面でつくらせていただくように心がけてきています。町会、自治会の方々との会議だったり、特定の分野のことであったり、対話の機会はこれからも、コロナをテーマにした意見を聞く機会。しかし、コロナは発生してしまうと、こういう機会がなかなかつくれなくなってしまうので、例えばオンラインでこういう会をつくったらどうかなという御意見、御提案をいただいているところなので、また今後、開催方法についてですね、よく検討させていただきたいと思います。ありがとうございました。

○司会者

続いて、1回目で、まず御意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

○西岡市長

どのようなことでも結構です。

○市民E

すみません。先ほどのちょっと続きでよろしいでしょうか。先ほどの続きで、ホームページ等、市長さんのほうからお話がありましたが、例えば本当に今、スマホを皆さん持っているんですけども、ある程度の年齢の方になりますと、やはり電話に使うとか、ほとんどそのアプリだとか何とか、自分で申込みが、例えばコロナに関しての接種ですかね、それを申し込むのもできないという方が結構身近にいました。それで、たしか私の記憶で

すと、直接申込みに行っても駄目だというようなことが、初めの頃ありましたでしょうか。

○西岡市長

予約方法ですね。ワクチン接種の予約については、小金井市は3つの方法を取りました。1つは、コールセンターに直接電話をしてもらう。もう一つは、インターネットから、これはパソコンとかスマホから予約をする。もう一つは診療所に直接電話をしてもらうということですね。この3つの選択を取りました。まずは、御高齢の方々がなかなかスマホ等で予約が取りにくい、やり方が分からないという方がいらっしゃるの重々承知しておりまして、一方では、スマホをもうちょっと使えるようになりたいという御希望もまた多いので、スマホ教室のようなものを開催するようにしました。それはそれで、これからも継続して取り組んでいきたいと思えます。希望者が、お孫さんとLINEで、テレビ回線をつないで、コロナで会えないからと話していらっしゃいました。かかりつけ医、病院、診療所、診療所にあつては、その診療所の御判断、御対応によって、いろいろなフェーズがあったかと思えます。中には、電話を受け付けてしまうと、どうしてもその診療に、中には規模の小さな病院もありますので、診察がうまくできないとか、事務員さんがずっと電話の対応をしなければいけないところもあるので、インターネットだけの予約にしているところもありました。また、直接病院でその予約を受け付けてくださっている診療所もあったかと思えます。それは運用上、そのほうが、患者さんにとってもやりやすいとか、そういう道もあったと思いますが、それから3つの方法を取ったということになります。それで、一時期、このワクチン接種を始めた当初は、どうしてもワクチンの数に限りがあり、電話回線がパンクしてつながらなくなったときがありました。大変御迷惑をおかけしましたが、今後の3回目の接種に関しては、8か月後ということと、ワクチンもしっかりそれだけ供給されてくるという前提なので、今回私たちが1回目の接種のときに、最初の段階で経験した、もう電話が繋がらずパンクしてしまうということは、今後はないものとは思っています。ちなみにコールセンターというのを市でつくっています。電話予約をする、電話で予約を受け付けるセンターをつくってまして、これは土曜日、日曜日、祝日もずっと開いています、この間。今、27回線、フル回線で準備を整えております。

○市民E

心強い、ありがとうございます。ちょっと私もその辺よく分からなかったのですけれど

も、それだけやっていただいたということはとても感謝しています。大変ありがとうございました。あと、もう一ついいでしょうか。コロナの初めの頃だったのですが、これも先日、小金井市のニュースで、とても成績がいいということを見ました。とてもうれしくて、これもぜひ、市長さん、皆さん、関係していただいた方に御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

○西岡市長

ありがとうございました。引き続き、ワクチン接種全力で、これは命と健康に関わることですし、小金井市の地域の医療提供体制、患者さんがたくさん増えてしまうと、各病院の先生方もいろんな診療をしておられて、ひいては市民の方々の医療を受ける側まで制約を受けてしまいますから、医療提供体制を守るためにも、有効なワクチン接種は引き続きしっかりと取り組んでまいりたいと思います。ありがとうございます。

○市民E

すみません。もう一つよろしいですか。本当に日本というこの国がいわゆる感染症に苦しんだというのは、それほど大きなものというのは、多分経験がなかったということなんではないかね。今回のコロナみたいなもので。それで、政府が皆さん、初めのうちは本当に、まだ安倍さんのときだったんですけども、テレビに出てはすごく大口たたいていましたよね。ワクチンというか、検査機がたくさんあるから1日に何万人もできる、何千人もできると。それがもう毎日毎日テレビで放送が流れてて、じゃあその検査機を使ってどれだけの人が検査したかという、本当に何百人単位ですよ。何かそういうことがとても多かったんですけども、正直にできないものはできないと言ってほしかったんですよ。それが政府の、やっぱり国民を心配させないようなやり方なのかもしれないんですけども、私もその頃、とっても憤慨しまして、もう内閣府からそれこそ厚生労働省ですかね、窓口行ってお話ししたいと思って、ちょこちょこ電話をしました。それで、日本で、千葉のほうにとってもいい検査機があるということ、何かちょっと聞いたんですよ、テレビで。それでそれは、検査で皆さん、検査する方が結局うつってしまうような、そういうことでも増えるということの話がありましたよね。検査するお医者様、担当の人が、鼻にこう、口ですか、鼻でしたか。それでそのときに、くしゃみされたときとかそういったときにも何かうつるというようなこともあって。ところがその千葉県のほうのあるすごい会

社が、自分のところで造っていたものを、国のほうに届出はしていたようなんですけど、日本はそういうのが許可されること割と遅いということで、それで、フランスのほうで、その会社にぜひお願いしたいとあって、フランスのほうにその機材というか検査機を全部、注文されたものを届けていると。そうしましたらすごくもう、その検査機がそれこそ電子レンジみたいな感じの大きさのもので、一切手をつけないで、自動でボタンを押しますと、中からこう、氷を凍らせるようなああいうものが出てきまして、そこにちょん、ちょん、ちょんと、取ったコロナの菌みたいなものをこう入れるんです。そうすると、閉めるも全部ボタンなんです。それこそ小さい子でもできるということで、とてもいいということ、ちょっとそれテレビでかなりやっていたので。私、それを日本が、政治家が知っているのかなと思って。そういうことで、それを教えたくてもうさんざん電話したことがあるんですけども、それでその受けてくださる方は、いや加藤大臣は多分その話は知らないだろうとか言って。皆さんお忙しいから一々そんなテレビを見ていることもないでしょうけれども、それはちょっと余談なんですけど、本当に将来どういうことが起きるかということの準備はやっぱりしておいてほしいというのは、自分たち、個人でも、地震に関してでもそうなんですけど、本当に今回は日本に、この政府に対して本当にかっかりしました。ノーベル賞でいろんな、いわゆる素粒子やら何やらで見えないそういった菌についてもすごく頂いている国なのに、何でそういうところが駄目だったのかと。縦社会で、国とこっちは違うんだと。大学にはたくさん検査機があるのに、こっちは何で使わせてくれないんだとか、何で使っていていいと言っているのにとかというのがちょっとあったような気がするんですね。すみません。愚痴です。申し訳ありません。以上です。

○西岡市長

ありがとうございます。今のは大変重要な御認識だと思うんです。国家として技術開発立国を目指していた日本が、この感染症の分野において、やっぱり国産のワクチンがいまだに残念ながら流通はしていない、開放されていないという現状もあるし、医療科学といましようか、日本はその分野ではかなり先進的ではないかなと思っていたところが、十分その分野の研究費など国費も含めて、十分ではなかったということがあります。コロナ、今はとにかく乗り越えるために全力上げていますが、この経験したことを、やっぱり国家として、これからそのパンデミックは起きると。御指摘のように、たしかスペイン風邪ですよね。私たちが一番人類で、私はまだ生まれてませんから、第一次世界大戦のときです

よね。日本も経験はして、当時は大変だったと思うんですよね、もっと。

○市民E

ヨーロッパのほうでは結構多いですよ、昔から。

○西岡市長

そうですね。その後はSARSとかMARSとかいろいろ活動はしている、いわゆるCOVIDというウイルスとか、いろんなものが世界中にあったのですが、日本は幸い、新型インフルエンザも逃れたんですよ。大きな事態はなかったんですよ。なので、今を生きる私たちは、日本人はパンデミックというのを初めて今、直面したんですね。なので、まさに国家、国には、今後もパンデミックは発生するという前提の下、その科学者の育成とか、医学系の病院、その薬の研究開発とか、製薬会社の方々の薬であったりワクチンであったり、そういう開発などについては、これまで以上に支援したり人材を育成していくということは、もう皆さん目を開かされたと思っているんですよ。なので、岸田政権が誕生して、これまでにないような施政方針という中では、私もちょっと見て注目したのは、かなりその、こういった分野に特化して、政府も予算も含めてかなり積極的にやっていかなきゃいけないんだということを表明されていたのは、多分国民の方々には安心材料には違いないと。これまでのいろいろな反省も含めて過去振り返って、ぜひ取り組んでいただきたいなと思います。貴重な御意見ありがとうございます。

○司会者

2回目以降でも構いません。コロナでまた、ありますか。

○市民F

これは質問じゃなくて、私の意見なんですけども、先ほども自己免疫の話がされましたよね。私も報道では少し思います。免疫力の強い方は、ほとんど病気にかかることはないと思います。ただ、今回のこの新型コロナは特効薬がないんですよ。それが開発されるまでは、先ほどの話じゃないんですけども、集団免疫力をつけなきゃいけない。それが今のワクチンしかないというのが現状なんで、それで今、一生懸命ワクチンを打っているわけですけども、おっしゃるとおり、これからどんどん変異株ができてくるだろうと思

います。それは今のインフルエンザと同じで、日本の場合は、例えば、あれは季節性がありますので、南半球のオーストラリアとかニュージーランドとか、あんなところではやったインフルエンザのものが北半球でも流行するんじゃないかということでワクチンを作っている状態なんですよ。それでワクチンを打てば、今のコロナは同じであまり重症化しない。そういうためにワクチンを打つんですけれども、インフルエンザでも、リレンザとかいう特効薬なんかありますので、まだ、皆さん心配はしてないだろうと思うのですが、今のこのコロナは、ちょっと治す薬がまだはっきりと開発されてないわけですよ。だけど、いずれ開発されるだろうと思うので、今のインフルエンザと同じように、これからもどンドン変異株が起こるたびに違ったワクチンを開発するだろうと思うし、もしかかっても、ある程度直す薬は出てくるだろうというふうに考えています。私はそういうふうに思っていますけどね。

○西岡市長

ありがとうございます。貴重な御意見いただきました。おっしゃるとおり、現状ではそうですね。今、例えば重症化を防ぐための抗体カクテル療法であったり、少しずつ、重症化を防ぐような各種医薬品が承認されて国内でも使用されています。また、アメリカなどでも経口薬が既に承認され、昨日のニュースでもファイザーも経口薬の申請をしたということがアメリカで起こっています。こういった特効薬の開発はぜひ世界的に大いにスピード感を持って、もう進めていただきたいと思います。国内においても、厚生労働省などでいろいろとこう、承認されるまでにはやはり日本には日本のルールがありますから、そういったものが必要になってきますが、これが市中にちゃんと出回って、比較的それ価格も大事なんですよ。こういうものって最初の初期の段階ってかなり高額になる傾向が、高いという御指摘もあるようですから、インフルエンザの薬のように、私たちが全国で、簡易といいましょうか、しっかり流通体制もつくって、量も確保しなければいけませんので、しっかりとした流れを日本国においてもしっかりつくっていただきたいということは、私も期待をしていますし、大変注目をさせていただいているところであります。ありがとうございました。

○市民G

2件目のことなのですが、よく、FacebookでもTwitterでも、難しいか

ら私はやらないんだというけど、あれ、難しいのは当たり前なんだよ。私だって半分ぐらい読んで、その指示どおりやったけど、もうその後、全てやる気がしないんだよ。だからほっておいたんですよ。だから、FacebookでもTwitterでもYouTubeでも、あれは客が欲しいんですから。客が1人1回ニュース聞くことによって手数料入るわけでしょ、ああいう会社は。客が欲しい、金が欲しいから、いいかげんなことを打ち込んだって、みんな、誤報なんですよ。だから、そののところが恐れずにスマホは難しいって諦めるのはちょっと早計だと思うんだよね。それでまた、あるとき昼寝してたんだよ、夏だったから。そうしたら蚊がぶーんと飛んできたんだけど、蚊取り線香たいてたんだよ。だから、僕ふっと考えたんだけど、蚊取り線香ってのは除虫菊という薬品なんだよね。あれがいいんじゃないかと思って、俺、厚労省へ担当者に電話かけたんですよ。だから、厚労省の担当者の女の係長だったかな、これはさ、ああーって、蚊取り線香ですか、うーん、じゃあこれは上のほうに必ず言うておきますからと言ってたんだけど、それから蚊取り線香のうわさが全然ないから、結局俺の意見は駄目だったんだなあと思ったわけ。ところが、考えてみると、日本は結構いろいろ、みんな用心するから少ないんだと思ったけど、感染者とか発病者ってのは日本は極端に少ないわけですよ。これは要するに、江戸時代から続く除虫菊という蚊取り線香の薬物が、そういう文化が、そういう部分は大いに影響しているんじゃないかと思うんですよ。あと、ワクチンを接種する順序について、小池さんは朝早くメール入ってて、まず第1に重症者から打つてこれ、おかしいというんだ。その小池さんの意見がTwitterなんか載ったとき、おかしいなと思って、小池さんに宛ててTwitter打ったんですよ。まず第1にワクチンを打たなきゃならないのは医者先生と、それから医療関係者、現場で働いておられる方。それがまず優先的にワクチンを受けるべきなんじゃないのとやったら、昼頃またTwitterが入って、医療関係者を最優先にしますと。僕はまた河野太郎さんとか安倍晋三さん、ああいうのはちゃんと、〇〇さん分かりましたなんて、そんな文句は入ってないけど、必ず返事が来るんですよ。だからくだらない、くだらないだろうけどこんなところです。

○西岡市長

ありがとうございます。私も蚊取り線香の効用については、ちょっと私も専門的な知識がなくてお答えすることができないので、申し訳ございません。御意見としてお聞きはさせていただきます。よろしく願いいたします。

また、SNSについての御見解などもお知らせいただいております。ありがとうございます。

○市民H

あまり時間かけていたら申し訳ありません。本当に簡単に。先ほど免疫力、そしてあとワクチン。それで、あともう一つはやっぱりマスクだと思うんですね。それで、テレビのニュースやら、いろんなコロナ関係の画像を見ますと、よその国ではみんなマスクも外していますね。アメリカでもどこでも、フランスでも。それで、日本はこういうふうに密が少なくなっても、ほとんど私なんか買物に行っただけで擦れ違ってみても、駅のほうまで行っても、もうほとんど信号のところで待っただけでこうやって見ますと、皆さんしてます。本当にしてない人めったにいないので、やはりマスクの効用というのも当然あるかと思えます。日本は昔からマスクをするというのにそんな抵抗のない民族だと思うんですね。ところが息子が数年前にちょっとニューヨークのほうに行っていたんですけども、真冬のすごい雪が降っている、それこそ吹雪の中でマスクをしていないもので、それこそフードのすごいのかぶってるんです。よく画像を送って動画で話をしていたんですけども、何でマスクをしないのかって言ったら、あっちのほうの外国で、特にニューヨークあたりですと、アメリカあたりですと、マスクをすると悪い人間というか、そういうイメージがあるからマスクは決してできないんだと。だから、そういう顔を隠すということはやっぱりまずいらしいんですね。そういうことを私も知らなかったんですが、そういう昔からの歴史で顔を隠しているのにはという、それぞれの国があるのかもしれないですが、日本はそういうことがなくてとてもよかったかと思えます。マスクの効用、すみません。

○西岡市長

ありがとうございます。マスクは感染予防に非常に重要なツールだと、改めて認識しております。今、私もワクチン接種をした方も、しっかりマスクをしてくださいと。ブレークスルー感染といって、ワクチン接種をしても感染してしまった方はいらっしゃいますし、また、ワクチン接種をしたことによって、ほとんど発症しない。感染はしているんですけど発症してない方もいて、全く気づかない場合があるみたいですね。そういった方がマスクをしていない場合は媒介してしまう可能性があるわけなので、マスクは、感染しない、感染させない、そういう意味からも、これは、パンデミック発生下においては重要なものだと思っております。市民の方々にも常に呼びかけています。ありがとうございます。

それではこの後はコロナ対策以外ということで、お時間がここは8時に退出しなければいけないので、残り15分ぐらいとなりますけれども、よろしく願いいたします。

まず、先ほど御質問者の方から、ごみ非常事態宣言、生ごみ堆肥化についての御質問いただきましたので、御回答いたします。まず小金井市では、近隣自治体、多摩地域の方々に、小金井市の可燃ごみを処理していただくという支援を受けるという自治体でございましたので、ごみを減らす、ごみを減量するということがもう小金井市の大変重要な課題でありました。小金井市の塵芥車、パッカー車が市を走っていたわけです。他市を通過して、可燃ごみ処理場までごみを運搬するわけです。なので、とにかくごみを減らそうと、ごみ非常事態宣言、ごみ減量というのがワンセットでありました。本当に実に多くの市民の方々の御努力によりまして、ごみの減量はかなり達成していただきました。その市民や事業者の方々に感謝申し上げます。その結果、小金井は、人口10万人から50万人未満の自治体では、市民1人当たりの1日当たりのごみの排出量が全国で一番少ない自治体になりました。これは環境省が毎年発表していますが、数年続いて小金井市は最も市民1人当たりの1日当たりのごみの排出量が全国で一番少ない自治体です。そして、ごみのリサイクル率も50%を超えていて、小金井市が1位だったときもあります、2位だったときもあります。最近の直近の数字では、環境省ホームページで公表していますが、小金井市はリサイクル率は2位になっていました。大体いつも鎌倉市と小金井市で上位を占めているという状態となっていて、このことも重要です。このせっきく成し遂げたこのごみの減量、ごみの分別、小金井市はごみの分別も、今たしか13種類、分け方によってはもうちょっと細分化するんですが、ほかの自治体に比べますと、非常にごみの分別していただいています。減量と分別。これからも小金井市は、変わらず、この3R、ごみの減量、ごみの分別、資源循環型社会を継続して目指していくというのが、小金井市の考えかたです。したがって、生ごみ処理機、これがごみを減らすために、上限額は電動式で50,000円、購入費の80%、10分の8を補助するという、他の自治体にはない高い補助率及び補助上限額で御支援をさせていただいてきたという歴史があります。これは今年度も継続しています。それで、もうこれは非常事態宣言がなくなったので、補助制度はもう今年度いっぱいでしょうかという御質問だと思いますが、補助制度はこれからも継続はさせていただきます。しかし来年度の予算編成と、それからごみ非常事態宣言も終了したということなど、また新たな様々なリサイクル事業などに取り組んでいくということなどを考えて、この補助率及び補助上限額については、これは毎年度予算編成のときに検討をして

いるのですけれども、令和4年度の予算編成においても、補助率については検討はさせていただきたいというふうに思っています。なお、この件については市議会の方々からも、いろいろな御意見はいただいているところでもあります。この約13年間近く、生ごみ処理機、購入された方々は非常に多く、他市よりも非常に多いのではないかと。御自宅で生ごみの処理をしていただいて、その堆肥が出ますね。堆肥といいたいでしょうか、最終的な処理した後に残るもの、残留物がありますが、堆肥として活用ができる道筋があるので、それを希釈して薄めて、土と混ぜていただいて、野菜、家庭菜園などで活用されている方もいらっしゃるし、いろいろな活用の方法がありますが、生ごみの処理をすることによって相当ごみが減ります。生ごみは非常に重いですね、水分を含んでおりますので。そういう意味では、ごみの減量に非常に有効な手段だと思っておりますので、これからも生ごみ処理機の購入費については、補助制度は継続させていただきたいと考えております。

○司会者

ほかに。

○市民 I

新庁舎と福祉会館の件ですが、何か、福祉会館のほうを先にという要望は随分多いんですが、これ、福祉会館をそういうふうに主張する人に何で福祉会館を先にするんですかといったら、いや、ある特定の老人団体が、早く福祉会館を造ってやらなきゃかわいそうだっていうんですよ。これは理由にならないでしょう。みんな無差別で市民は生きてるんだから。だからその福祉会館が先だというのは、これ、明らかに意外なことですよ。それからまた、市庁舎を建てるって、今の旧市庁舎、あそこに消防署、消防署と市庁舎があるよ。だから大事なのは慰霊碑ですよ。ああいうものに気をつけてやれば、今もう、本庁舎をぶっ壊してそこに福祉会館を建てて、あれの跡地には新市庁舎を建てると。だから日はさんと当たる。あの太い樹木は切らずに済む。多少値段はどうか分かんないですね。ずっと安いんだか分かんない。でも、大体、もう何千年もたしかに日本は耐震構造の建物に多くの匠が腕を振るって築き上げてきた耐震構造でしょう。たかだか何十年前にできた免震構造なんて、あんなの信用できるわけじゃないじゃないですか。僕はそういうふうに思いますね。

○西岡市長

新庁舎、(仮称)新福祉会館に関しての様々な御意見、御見解を聞かせていただきました。これは、市民の方々との議論や市議会の方々との議論を積み上げてまいりまして、福祉会館は、既にあったものが閉館をしてしまいまして、今はいろいろな機能が分散して暫定状態にあります。本来必要であった福祉会館の機能が、建物が老朽化し過ぎてしまって、耐震改修もできない。もうこのビルは安全に継続して使うことができないので、急遽閉館をしたという歴史があります。したがって、福祉会館の機能は早期に回復すべきだという御意見があり、市議会からも同様の御意見もあり、福祉会館をどのように建てるのがいいのかということを検討した結果、そもそも改築計画はあったんですけれども、市長の判断で、これはやはり新庁舎と福祉会館の複合施設が望ましいという判断がありまして、その検討を一旦ストップいたしました。いろいろ紆余曲折あったんですが、福祉会館の基本計画を策定しました。これは市民参加、専門家の方々にも入っていただいて、御議論いただきました。その結果、やはり福祉会館にはいろいろな機能があり、また、その中に保健センターとか、子ども家庭支援センターとか、ファミリーサポートセンター、市の一番西側で業務をしていただいている。東町や梶野町の方々は通いづらいですね。なので、保健センターの機能を入れた形で、市の中心部に造るべきだと。そのほうが市民の方々も便利、利便性が高い。そして庁舎建設予定地が大変望ましいという結論を出していただきました。その結果、庁舎と福祉会館は同じ敷地内で建設をして、そして、そのほうが、福祉会館の中にはシルバー人材センター、社会福祉協議会、福祉の拠点となる様々な重要な機能が入ってございまして、その機能と庁舎が同じ敷地内にあったほうが、市民の人も利用しやすいし、そしていろいろなサービス、ソフトも展開しやすいということで、庁舎と福祉会館は複合施設として建設をするのが望ましいと、そういうことで結論が出ましたので、そのような形でずっと議論を積み上げてきたというふうに、ぜひ御理解いただきたいと思えます。ただ、本庁舎にある機能は、これは新庁舎が建設されれば、今の本庁舎も古い西庁舎も旧消防署の、今倉庫に使っているところも、これは全て解体することになります。更地化した本庁舎の跡地については、これは私は、売却や定期借地や民間の活力の導入など、いろいろな方策がありますが、小金井市に寄与する形で、未来のために最大限にその跡地は資産価値を有効活用していくべきだと思っています。なお、あの中に小金井市戦争犠牲者の慰霊碑というものがあります。私もよく目の前に立たせていただいて手を合わせます。戦争犠牲者慰霊碑、これたしか昭和30年頃に建立されたもので大切なものです。

こちらは、新庁舎の建設に合わせて移設をさせていただきたいと思っています。ただ、かなり古いんです。なので、あれはそのまま移設することは、ちょっと技術的にも難しいというふうに担当からも聞いているので、何というんでしょう、中に銅板があるんですけども、戦争犠牲者慰霊碑の大事な部分、重要な部分は移設をして、何らかの形で、新しい庁舎建設予定地にもしっかりと継続した形で建立させていただきたいと考えております。以上です。

○市民 J

あまり時間がないと思いますので、簡単に申し上げます。今、市長の話を聞いていますと、私、小金井市民になってまだ15年ですので、それ以前の話はよく分からないというか、聞いただけなので本当かどうか分からないんですけども、新しく新市庁舎を建てるというあの蛇の目の跡地というのは、そのために相当、昔、買ったというふうに私は聞いております。それと、福社会館がもう老朽化して、入っているのが危ないというようなことが、これは西岡市長の責任じゃないですけども、もっと前から分かっているはずなんで、それをやるのであれば、さっさとほかのところに福社会館を建て直すとかということを考えないと駄目だというふうに私は思います。それと、やっぱり、そのものを統合したものを造ろうというのは、これは私はいいと思います。場所的に、全部同じところで何もかも済むというのは非常に利便性があると思いますので、それを早くやってほしいと、市民にとっては、非常に議論がされて、予算が増えるかどうか、それはあるかもしれませんが、やっぱり迅速にやらないと、民間企業が本当にそんなことやっていたら、とてもではないですけども、うまくいきません。それを、ぜひ市だとか国だとかいうのはやってほしいし、ぜひ小金井でも、スピードアップをやってほしいというふうに思います。引き続き。

○西岡市長

貴重な御意見ありがとうございます。また、激励をいただきましてありがとうございます。市長といたしましては、新庁舎、(仮称)新福社会館の実施設計まで積み上げてまいりました。早期に建設をしたいという市長としての意思は明確であります。しかし、市議会などの皆様方の御理解を得ながら進めていかなければいけないので、その説明責任をしっかりと果たさなければいけないとは思っております。その責任もあるというように思っ

います。また、将来の小金井市の財政への懸念もありますが、市長としては、基金をこれまで積立てております。庁舎建設はその大体70%ぐらいを起債で活用して、長く使う庁舎です。今回目指しているのは、もう50年、大規模改修をしてさらに数十年、設計者の方も100年ぐらいは使えるような市役所を目指したいんだ、そういう強い意思を説明会のおきにお話しされていました。とても心強いなと思ったんですね。長く使っても、新庁舎の建設に向き合う機会というのは、そうはないと思います。福社会館も、単体で別々で造るよりは、最終的には複合施設として造ったほうが、職員同士の連携もできますね。市民の方も便利です。小金井は4キロ・4キロのコンパクトな市ですから、市の中心部にあってどこからもほぼ等距離に行けると。せっかく造るものがばらばらであるよりは、複合施設であったほうがいろんなメリットがありますので、この庁舎・福社会館は同じ建物の中で複合施設として造ろうという方針を決めました。したがって、そのことは私も、多くの方々の議論を尽くしてきましたから、その方向で、早期に建設ができるようにぜひ努力してまいりたいと、今、最大限頑張っておりますけれども、努力してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○市民J

こちらこそよろしくお願いします。

○司会者

では最後、お一方。

○市民K

これは私個人の提案なんですけれども、例えば三鷹市ですと、天文というような形で、そういうのをうたって何か、三鷹市を象徴しているようなことがある。小金井市は、こきんちゃん、とてもかわいいですね。それで、何かやっぱり小金井市も、ちょっとやってもいいんじゃないかなというのが以前からありまして、今の子どもさんたちがやっぱり、これからの時代、宇宙に、もう、どんどん今、飛び出している時代ですよ。それでよく、将来何になりたいという中にも、宇宙に行って、それこそロケットの宇宙飛行士になりたいとか、子どもって男の子が多いですよ。中には女の子もいます。これからやっぱりその宇宙関連で知っておかなきゃいけない科学、天文、物理、そういった関係を、例えば市

報の隅にでもいいので、本当に子どもさんが市報を、親子で市報を見て、あっ今度の市報にはこういうのが載っているという、その宇宙関連の何かそういったものを1か所入れてもいいんじゃないかと私は思うんですね。私は子どもの頃に、あの星を見て親からちょっと教えられた、もうそれこそ何十年も昔ですけど、あれは今すぐ近くで光っている星じゃないと。それこそ何億年前からの光が今、ここの地球に来ています。そんなことを教えられて、やっぱり興味持ちました。年頃になって普通の生活をして主婦になって子どもを産んで、今この年齢になりましたが、ここで最後、ちょっと自分で何かやらないと終わってしまう年代になりましたので、じゃあ思い出して、自分がその宇宙関係好きなものですから、じゃあ科学、物理専門ですとね、それをちょっと五、六年前ぐらいから勉強し始めまして、今、早稲田とかいろんなどころへ行って、いわゆるそういった社会人学級みたいなもので実行しているんですけども、やっぱりとても面白いんです。もう本当に不思議なくらいに、私たち自身はここで見えるもの全てはマイクロのマイクロのそれこそ何兆分の1の何兆分の1で、もうそういうものが実際この宇宙をつくって私たちに見えるものができているわけですね。そういったものに、子どもたちもそのうちに当然勉強してくると思うんですね。一般相対性理論とかというのが何か今、中学ぐらいで授業が始まるようなことをちらっと聞いたんですけども、そこまで難しいことでなく、例えば、この太陽系はどういうふうにしたのか。例えば、太陽を光が1秒間で7回半回るんですね。そういった豆知識みたいなので、もうその子興味を持つと思うんです。もう本当にかわいい小さい子が、ああ、すごい、光ってそんな速いんだと。そういったものを例えばこの地球がどういうふうにしたとか、今、月と地球の関係は本当に腕を組んだようにロックされて動いているから、月の後ろは見えない、裏側は見えないんだと、私たち地球にいる限りは。そういったことを、何か1つ、毎回市報の中の一部にちょっと入れていっても、親子で楽しめるような市報が見られるんじゃないかなというのが、ちょっと心にありまして、今日はそれを、もしできればやっていただきたいと思いました。

○西岡市長

御提案いただきましてありがとうございます。子どもたちは宇宙の話とかが大好きなんですよね。私も三鷹に天文台があって、その隣の市合同で、天文台の副学長さんの渡部先生、非常に有名な先生で。

○市民K

私も授業を受けました。

○西岡市長

私もお話を聞いて楽しかったですし、子どもたちも目をきらきらきらされている。大事なことだなと思いました。小金井は特に、いわゆる理系の大学や高校が多いんですよね。法政大学の理工学部だとか、農工大学の工学部とか、東京都立科学技術高校というのがあります。また、国の唯一の情報通信研究機関であるNICT、貫井北町に情報通信研究機構というのがあります。いろいろな研究をしています。なのでその科学や工学や研究開発、ITやAI、そういった研究をしている方々が多いのが小金井の特徴なんですよ。ちょっと宇宙という形になると、また若干特殊性はあるものの、将来のやっぱり日本の技術者を人材育成していくという観点からも大事なことです。例えば小金井では小金井「青少年のための科学の祭典」というイベントを、もう十四、五年やっているんですね。これはいろんな理系の方々がたくさんのブースを出してくれて、1日1万人を超える子どもたちが来たこともあるんですけど、子どもたちがそういった分野に非常に興味を持っているし、持ってもらいたいし、将来の人材育成につながるのではないかと私も思います。市報「こがねい」でございますけれども、子どもたちと宇宙とをつなげるような、そういう工夫、例えば講演会を開催したり、三鷹の天文台の方々にちょっとお力を借りるとか、いろんなことは大事なことだなと。これは小金井市の教育委員会ともつながるお話だなと思いますので、大熊教育長にも、こんな御提案があったよということは、私からもお伝えさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○市民K

毎回同じような市報ですと、あつまた同じかなという感じがあります。何かたまには、もうちょっとそういった新規なものを入れ込んだものも、これは絶対必要だと思いますので、そのところをぜひとも、強く推してください。お願いいたします。

○司会者

ありがとうございます。

○市民L

もう一ついいですか。

○西岡市長

どうぞ。

○市民L

私、栗山公園で毎朝ラジオ体操をやっているんですけども、ハトに餌をやる人がいます。知人の会員の一人が、まかれた日に朝5時頃から出てきて2時間ぐらいかけて掃除しているんですよ。それで、この前の市報にも、環境政策課から、そういうハトとかカラスとか、時々カモも来るんですけども、餌をやらないでほしいというようなことがちらっと書いてあるのを見たんですが、あんなもの書いたって全然役に立たないというか、それぐらい非常にハトの餌まきに固執している人がいるんですよ。条例とか何かをつくって、それをやめさせるというのはできないものでしょうか。

○西岡市長

ちょっと時間の関係で、御答弁は簡潔にならざるを得ないのですが、この件はもう十分把握しています。そして、担当者も関係機関といろいろ連携して、様々な対策を取ってきたということだけはお伝えさせていただきたいと思います。

○市民L

知っております。

○西岡市長

なかなか難しい課題ではありますが、引き続き職員も相当頑張っているんですけども、難しい問題でもありまして、努力させていただきたいというふうに思います。ちょっと今日は時間の関係で答弁簡潔になりましたが、十分把握しているし、様々なこと取り組んできたということは御理解いただきたいと思います。

○市民I

ただ、その会員も、徹底的に掃除するので、最近ハトも上は飛んでいるんですけど、なかなか降りてこなくなりました。

○司会者

ありがとうございます。今日は、いろいろ御意見いただきたいところなんですけども、お時間となってしまいましたので、ここで終了させていただきたいと思います。それでは最後に、市長より一言申し上げまして終了とさせていただきます。

○西岡市長

それでは、今日は約2時間にわたりまして貴重な機会をいただきまして、本当にありがとうございました。どうぞ皆様、くれぐれも御健康には気をつけて、これから寒い季節になってまいりますので、御自愛の上、お過ごしをいただければと思います。私も引き続き、市民の皆様方の命と健康、地域の医療提供体制、しっかり守り抜くために、まずはコロナを乗り越えていけるように、全力を尽くして取り組んでまいりたいと思いますので、どうか引き続きの御理解をいただきますよう、よろしく申し上げます。本当にありがとうございました。

○市民 I

市民としては頑張ってくださいとしか言いようがありませんので、お願いします。

○西岡市長

ありがとうございます。

○司会者

ありがとうございます。それでは、以上をもちまして、第4回の市民と市長の座談会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。